

ネパール難民救おう

AMDA 同国の留学生医師派遣

医師不足で十分な医療を

（三巴）が十日、日本をたち一

遣する。

受けられないネパールの難民を救おうと、神戸大大学院に留学して小児医学を研究しているネパール人医師ラメスアラ・ポカレルさん

時帰国する。ポカレルさんは岡山市に本部を置き難民救済活動などを行っているAMDA（アジア医師連絡協議会）の一員で、同会が派

AMD Aによると、ネパールの東にあるブータンには約三十五万人のネパール系住民がいるが、一九八九年に起きたネパールの民主

化運動に伴い、波及を恐れ

たブータン政府が彼らに厳

しい施策をとり始めた。

このためネパールへ脱出

する住民が続出、東端の町、

ジャパにある難民キャンプ

では五万人以上が井戸水汚

染など悪い衛生状態の中で

暮らし、マラリアなどで死

亡する人もでてい。医師

も現地の三人だけで薬品も

不足しているという。

ポカレルさんはAMDA

ネパール支部の医師三人と

合流してジャパに野外診療

所を開き、治療にあたるほ

か、国連や民間の援助機関

と情報交換、政府にも働き

かけて救援体制を整える。

二十八日に日本へ帰る。A

MDAは体制が整うまで順

に医師、看護婦を派遣する。

打ち合わせのためAMD

A事務局の岡山市の菅波内

科医院を訪れたポカレルさ

んは「人間らしい生活をお

くれるよう力いっぱい働

く。将来、経験を生かした

い」と力を込めて話してい

た。AMDAの山本秀樹事

務局長は「現地に詳しく人

脈もあり、難民の大きな力

になる」と期待している。